



緊急事態宣言による今後の酪農研運営

政府は4月16日、新型コロナウイルスの政府対策本部会合を官邸で開き、特別措置法に基づく緊急事態宣言の対象を7都府県から北海道を含む全国に広げました。同日夜に効力が発生し期間は5月6日までと定めています。この緊急事態宣言の背景には、全国的な感染拡大・医療崩壊の防止のため、全国の知事に権限を与え、人の移動を抑え込む必要があると判断したためです。

政府はここ北海道についても、感染者数が増加している背景を踏まえ「特定警戒都道府県」と定め、国として重点的に対策を進めることになりました。これに伴い政府は、道内の飲食店及びライブバー・スナックなどのいわゆる「3密」になりうる環境に行くことをやめるよう呼びかけています。また企業の社会活動についてもより一層のテレワーク推進など日常業務にも多大な影響を及ぼしています。

酪農研十勝協議会においても、感染拡大防止と政府の緊急事態宣言を受け、各役員の皆様を中心に協議した結果、**終息が見通せるようになるまでの間、十勝協議会としての活動を無期延期**とすることと致しました。

各地方連・単研の役員各位からも「苦渋の決断」「酪農家に感染者が出たら経営継続が立ち行かなくなる」「終息まで我慢が必要」等、様々なご意見を頂きました。現地事務局としても複数の会員の皆様と接触する機会があることから、必要最低限の会話や対応とさせて頂ければと思います。また、直近の行事計画は以下の通りとさせて頂きます。

【十勝協議会傘下の事業計画】

- 4月中旬 十勝協議会 定期総会 中止
※書面総会にて決議予定(4月末)
- 5月下旬 十勝協議会 管外視察研修 延期
- 5月下旬 大樹単研 役員会 延期
- 5月下旬 広尾単研 役員会 延期
- 7月上旬 大樹単研 家族定例会 中止
- 7月上旬 広尾単研 家族定例会 中止

※視察研修は来年度事業で実施予定
※家族定例会は年末交流会と併せて実施予定

「3つの密」を全員で防ぎましょう!



～政府の緊急事態宣言を受けて生産者取材が中止となります～

以前よりコロナウイルス感染拡大の影響で2・3月号につきましては、防疫上取材は控えさせて頂いておりました。3月下旬には北海道での感染者も減少し、4月上旬より会員の皆様への取材を再開しておりましたが、政府の「緊急事態宣言」に加え、北海道は**特定警戒都道府県に指定されたため**、皆様への取材を**無期延期**とせざるを得ない状況となりました。役員の皆様と協議し、終息の見通しが付きましたら改めて取材を再開して参りたいと思っておりますので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



発行人:日本酪農青年研究連盟 十勝協議会 会長 高野 修一
事務局:雪印メグミルク(株) 大樹工場内(十勝協議会事務局 大山冬馬)
連絡先:TEL;01558-6-2121 FAX;01558-6-2124



※政府の緊急事態宣言前に取材しています

特集 とかちびと 一十勝の地で生きる人

今回の特集とかちびとでは西部十勝地方連キーマンの「今」をご紹介します

File.06 藤井稔さん 「広い視点で知見を深めていきたい」

(西部十勝地方連 清水単研)



十勝清水町の藤井稔さんは現在48歳。株式会社 藤井牧場の代表を務める。4月から西部十勝地方酪農青年研究連盟の委員長に就任されたキーマンだ。この言葉は新委員長就任にあたっての抱負で出た言葉。「酪農研は全国にネットワークを持つ組織であり、広い視点で自分の牧場を見つめることができる。これからは酪農研活動を通してもっと広い世界で知見を深め自身の牧場経営に活かしていきたい」と熱を込めて語る。

藤井牧場の総頭数は約1400頭で飼料畑面積は120ha(牧草90ha・デントコーン 30ha)、出荷乳量 6,000tを誇る。2016年には日本酪農研究会の経営発表の部において「挑戦 ～究極の酪農経営法人を目指して～」と題し堂々たる発表で見事、優秀賞を受賞された。藤井新委員長は自身の牧場の他に、町内9件の酪農家による預託牧場「清流ファーム」を運営。その実績からも分かるように優れた経営手腕の持ち主でもある。

「酪農・乳業はもっと密接になるべき」

藤井新委員長は「湯浅さんから責任ある大役を譲っていただいた。この重責をプレッシャーに感じることなく、自分らしく事業運営を進めていきたい。また、酪農・乳業はより密接な関係になることで新たな未来や可能性が開けるはずだ」と語る姿は強い意気込みを感じさせる。座右の銘をお聞きすると「一生懸命」と即答。藤井新委員長の人柄を物語っている。

ちなみに好きな雪印メグミルク製品は「さけるチーズのプレーン」。食感と美味しさは雪印の技術がトップレベルであることを証明していると語る。趣味は車とビールを飲むこと。今後の活躍が益々期待される新委員長である。



File.07 湯浅勝浩さん 「雪印と一緒にここまで歩んできた」

(西部十勝地方連 新得単研)



20年以上に渡り西部十勝地方連の委員長を務められた湯浅前委員長は現在58歳となり、今年3月に委員長を勇退された。これまでの酪農研活動の「生き字引」と言っても過言ではない。「20代前半に酪農研に入会したのが始まり。当時は現在と違って会員も多く毎年、清水・新得単研対抗でソフトボール大会を開催していた。2000年の雪印食中毒事件の時も俺たちの雪印という『身内感覚』であり一緒にここまで歩んできたという思いは人一倍強い」と振り返る。これまで多くの活動に参加してきたことで、「表に出ることの大切さに気付けた。酪農研の仲間達が今ではかけがえのない宝物になった」と振り返る。

「継続は力であることを忘れないで欲しい」

「藤井新委員長にはこれから継続は力なりということをお忘れんでもらいたい。どんな活動でもそうだが一度辞めてしまったことを復活させることは容易ではない。後世の若者にも酪農研という伝統を引継ぎその魅力を発信してもらいたい」と語る。「酪農は毎日同じ作業でもやり方は1つだけではない。これは酪農研で学んだこと。全国に仲間を作り様々な経営手法を見ることは必ず自分のプラスになるはず」と笑顔で話す。ちなみに好きな雪印メグミルク製品は「カマンベールチーズ」。あの味と熟成度合いが酒に良く合うとのこと。



酪農語録 「夢を持って“なりたい自分”を描け」 言葉:元JA浜中町組合長 石橋 榮紀